



卒業おめでとう

歯学部長 前田 健康

歯学科第38期生の皆さん、口腔生命福祉学科第1期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業までの道のりは決して平坦ではなく、山あり、谷あり、つらいこと、悲しいこと、いろいろあったでしょうが、それらすべてを乗り越え、無事、卒業の日を迎えたことを心よりお喜び申し上げます。

この春からは歯科臨床研修医、歯科衛生士、行政職、大学院生など、それぞれの道に進みます。歯学科、口腔生命福祉学科ともに小さなクラスでしたが、ともに学び、遊び、悩み、喜び、悲しみを共有しあった同級生は諸君たちの一生の良き友です。進む道は各人で異なるものの、歯科医学、歯科医療、口腔保健、社会福祉に携わり国民の健康の維持・増進に寄与するという諸君たちの目標は同一であると思います。ただし、残念ながら諸君たちの4年間、6年間の学業は歯科医療・口腔保健従事者としてはまだ必要最低限のもので、いわば諸君たちは、今また新たなスタートラインに立ったばかりです。新潟大学歯学部の教育課程は国家試験に合格するという短期的な目標で組み立てられているのではなく、我々歯科医療・口腔保健・福祉従事者が一生涯学び続けるために必要なスキルを身につけさせるという長期的観点から組み立てられています。社会は、医療人に対して幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感をもっていることを求めています。これらは今までに受けた教育だけでは不十分で、生涯を通じた学習、研修によって得られるものです。諸君たちは共通の目標に向かって、さらなる精進が必要です。そのためには自分をさらにスキルアップするための目標を設定して努力してください。このことは現在の競争社会で生き抜いていくために必要不可欠なことです。特に卒業直後の数年間が君たちの将来

を決定するといっても過言ではありません。目先のことにとらわれず、最終目標に向かって努力しましょう。諸君たちが学んだ新潟大学は独立行政法人化されたとはいえ、大学の収入の多くは国からの運営交付金です。すなわち、国民の税金で君たちは学んできました。卒業して社会に出ていく皆さんは、特に国民を意識して国民に貢献できるよう、また君たちが学んで得たものを社会に還元できるよう努力してください。社会はそれを強く求めています。

「人生50年」という言葉がありました。The World Health Report 2006によれば、我が国の平均寿命は男性で79歳、女性で86歳です。平均出生率は2を割り、10年前の1997年には合計特殊出生率が人口置き換え水準をはるかに下まわり、かつ、子供の数が高齢者人口（65歳以上人口）よりも少なくなった社会、すなわち少子社会になっています。諸君たちが在学中に何度も聞かされた少子高齢化が急速に進んでいきます。一本の歯から口腔へ、口腔から全身へ、一人の人間から社会へと目を向けていく必要があります。得てして人間は狭い領域を深く掘り進む傾向にありますが、大局的な見地でものを見据えていく必要があります。また人口構造の変化に加え、疾病構造も複雑に変化しています。さらに新しい歯科治療法、材料が開発され、歯科臨床応用されています。このような激しい変革の中で諸君たちは「真に必要なものは何か？」を見極める目が必要です。その際、諸君たちが大学生活で身につけたスキル、科学的な目で取捨選択していきましょう。

諸君たちの今後の活躍を大いに期待しています。君たちの母校、新潟大学歯学部はいつまでも君たちのサポートを続けていきます。



卒業生に贈る言葉

医歯学総合病院副院長 齊 藤 力
(歯科担当)

歯学科第38期生ならびに口腔生命福祉学科第1期生の皆さん、卒業誠におめでとうございます。皆さんは歯学部での課程をすべて修了し、晴れて学士の学位を授与されました。これまでの努力とその成果を賞賛するとともに、光り輝く未来を心から祝福いたします。

新潟大学歯学部での学生生活はいかがでしたか？ ふり返るといろいろな出来事があったことでしょうか。旭町キャンパスで過ごした青春の思い出は、皆さんの一生の宝となるはずです。そして新潟大学で学ぶ機会を与えてくれたご家族に感謝してください。

歯学科を卒業した皆さんの多くは、歯科医師として臨床や研究の第一線で活躍することとなるでしょう。新潟大学で学んだ知識や技能は歯科医師としての基礎となります。卒業後はこの土台に何を積み重ねていくかが勝負であると思います。現在の歯科医療を取り巻く環境は複雑なものがあります。しかしながら地道に努力を重ねたものに対しては、必ず明るい未来が切り開けるはずです。歯科医療は日進月歩であり、生涯に渡って学習を継続することが欠かせません。専門分野・領域を探究することも大切ですが、歯科医師の専門は歯科であるということをぜひとも忘れないでいただきたいと思います。すなわち総合的に顎口腔領域の疾患を治療、予防し、機能を回復させることが歯科医師に求められているのです。また研究にお

いても歯科医師ならではの視点を忘れないでほしいと思います。これは臨床研究だけでなく、基礎研究においてもいえる事です。知的好奇心を失うことなく一步一步努力を重ねていってください。

口腔生命福祉学科を卒業した皆さんは第1期生ということもあり、何かと苦労が多かったことと思います。先輩がいないということは、さぞかし心細かったことだったと思います。口腔生命福祉学科の歴史の一步は皆さんが作り上げてきたものであり、そして、これからもその役割は続きます。卒業後は社会福祉士、歯科衛生士として活躍する人が多いのではないかと思います。これから始まる後期高齢者医療制度のもとで、あるいは障害者医療の中で皆さんに求められる要求はますます高まっていくことでしょう。生涯学ぶ姿勢を持ち続け、ぜひとも後進の指導もできるプロフェッショナルになっていくことを期待しています。

新潟大学医歯学総合病院は使命として優れた医療人を育成する卒後研修プログラムを作成し、歯科医学、歯科医療の様々な分野で将来リーダーとして活躍する皆さんを、全面的に支援したいと考えております。卒業後も何かありましたら医歯学総合病院歯科を訪ねてください。皆さんの“学びたい”という意欲に応えていきたいと思います。充分に実力をつけ、世界に向けて羽ばたいていくことを心から期待しております。

卒業にあたって

歯学科6年 伊藤 恭輔



1年生の6月、歯学部ニュースの原稿を依頼されてから、もう6年。あつという間の6年間でした。そのときは、「これからの6年で何が起ころかすごく楽しみです。」と締めくくっていた自分。この学生生活で何が起こったのでしょうか。部活の度にご飯をおごってもらっていた1年生。セルにひいひい言っていた2年生。毎週のように飲みに行っていた3年生。デンタルで九州まで行ったのに1回戦で負けて、1週間かけて日本中遊びながら新潟まで帰ってきた4年生。ポリワリが始まり、ストレス回避のためにトランプやっていた5年生。そして、総診の6年生。

今思い起こしてみると、その年その年で色々な思い出がありました。そのなかでも、切り離せないのは部活の思い出でしょう。たぶん。小・中とサッカー部だったので、大学でもまたサッカーやりたいなあと軽い気持ちで入ったサッカー部。大学入ってこんなに真剣に走り回るとは思いませんでした。夏のデンタルに向けて毎年チームを作っていくわけですが、正直きつい時もありました。それでも頑張れたのはみんなとやるサッカーが楽しかったから。試合の後マネージャーさんに笑っててほしかったから。夏のデンタルではずっとと思うような結果が残せず苦しかったけど、5年のときの試合後のうれし涙は忘れません。「笑って終わろう」と臨んだ6年のデンタル。絶対に忘れません。やつとの思いで掴んだ1勝。届かなかった1勝。どれも忘れません。みんなとサッカーできて本当によかった。ありがとう。

中身の濃くて、これからの人生では味わえないような充実した6年間。そんなこんな思い出は書ききれないので、最後はやっぱ総診での臨床実習の日々を。

5年生の11月、総診での臨床実習が始まりました。患者様には時に不安な思いをさせたり、分か

りやすく話そうとしすぎて混乱させたりもしました。長時間の診療は嫌になることもあったでしょう。でも、常に笑顔でいてくださいました。こんな優しい患者様がいたからこそ、1年間やり通せたのだと思います。ありがとうございました。臨床実習中は、教科書通りにいかないことが多く、いつもいっぱいいっぱいでした。ライター・技工士の先生方にはご迷惑と知りつついつも甘えてしまうことも多々ありました。ありがとうございました。

大学を卒業し、国家試験に合格すれば歯科医師としての道を一步踏み出すこととなりますが、そこは事上練磨、これからも常に勉強し腕を磨いていきたいと思います。

ほんつとに楽しい6年間でした。ありがとうございました。

卒業にあたって

口腔生命福祉学科4年 梅澤 佳世子



早いもので、新潟大学に進学してから4年の月日が経とうとしています。

入学前は、私は新潟のことを全くと言って良い程何も知りませんでした。しかし、実際に生活してみて、道路には沢山のバスが走り、買い物も不自由なくでき、とても住みやすい土地でした。お米やお酒、海の幸はとても美味しく、自然も豊かでした。学校からすぐそばには、広い日本海がきらきらと輝き、海なし県の群馬からやってきた私はとても感動しました。冬は、想像していた程の雪は降りませんが、冷たい風や雨・雪が降り、1年間に傘が何本も折れたり、夜中にアパートの前をもの凄い音をたてて除雪車が通ったときは何とも言えない恐怖を感じ、これから先の新潟での生活に不安を覚えましたが、そんな自然環境にも段々と慣れていき、今は少しは順応したつもりです。

さて、学生生活を改めて振り返りますと、実に様々な出来事が思い出されます。

その中でも、まず最初に思い浮かぶのが、部活動のことです。私は全学の管弦楽団に所属していました。150名を超える大所帯ですが、団員1人1人が、一つの音楽をつくる、という目標に向かって、ひたむきに練習や意見交換を行い、とても気合の入った部活でした。そういったなかで、音楽に限らず様々な悩みや喜びを分かち合う仲間に出会えた事はとても大きな収穫だったと思っています。3年生になり、部活を執行する際、私は飲み会を仕切る係のトップに配属されることになりました。少々ふざけた感じに捉えられる係ですが、これは、管弦楽団にとって結構重要な役割を持つ係でした。みんなで音楽をつくりあげていくには、演奏の場以外に、音楽に関してお互いが腹を割って話す場が必要であり、その場が飲み会場であることがしばしばでした。部活の組織が大きいので、全員が気分よく過ごせるように、部長やコンサートマスター、他の係、飲み会場のお店の人、音楽を教えてくださいの先生方との連絡調整がとても重要でした。そこで感じた事は、どんなに小さな事柄においても、お互いの意見を誤解なく理解しあうのは難しいという事でした。一方通行では物事がうまく運ばず、お互いが理解してはじめてうまくいくものだという事を、身をもって体験しました。

部活動で学んだ事は大学の授業の中でも感じる事ができました。口腔生命福祉学科では、歯科保健と社会福祉の両方を学んできました。歯科保健と社会福祉の2分野は、もともとは異なったフィールドにありますが、その両者を上手く連結させるには、医療・福祉などの関係者、クライアントとの連絡調整は不可欠であることを学びました。また、私たちは1期生として、4年間で学習してきた比較的新しい概念を、関係者や身の回りの方に誤解を最小限にとどめて伝え、実践や研究の場で活動する責任があると感じています。それには、ただ持論を展開してだけでなく、互いの言い分を理解しあいながら進めることが必要なのだと思います。言うは易し、行うは難しですが、この4年間で学んできた様々なことを、これからは、より知識や理解を深めうまく社会に還元していきたいと思っています。

最後に、歯学部諸先生方、病院スタッフの方々、そして、共に沢山の思い出を作ってくれた同期の友達に心から感謝申し上げます。

6年を振り返って

歯学科6年 鴻巣 理紗子



新潟には祖母の家があり、幼い頃から毎年遊びにきていて馴染みがありましたが、まさか住むことになるとはその当時は思ってもいませんでした。遙々茨城より、新潟に移り住み大学

生活を始めて早くも6年が経とうとしています。この6年を振り返ってみると、楽しかったこと、辛かったこといろいろありましたが、この度無事に卒業を迎えられることを嬉しく思います。

1年生では、時間に余裕があったことを利用して、部活やバイト中心の生活でした。

2年生では、細胞生物学‘THE CELL’が始まりました。高校生のときに生物の調べものをした際に図書館で‘THE CELL’を手に取り、分厚くて難しそうな本だという印象で数ページ読んで満足してしまっていたことがありました。その時の本が偶然にも大学の教科書となり、約半年かけて1冊習うことになったことに最初は戸惑いましたが、戸惑っている間にも次から次へと試験が始まりましたので一生懸命勉強したことが印象に残っています。

3年生では解剖学実習、4年生では各科の模型実習が始まり、なかなか思うように実習が進まなかったり、失敗してしまったりすることがありました。この頃から臨床科目が増えてくるとともに、将来について考えるようになってきました。今までは出来ないことがあっても、自分だけの問題で終わりましたが、これから社会に出た際には自分が行なったことは自分だけの問題ではなく、むしろ周りの方々に迷惑をかけてしまうことに繋がるのではないかと思うとよけいに落ち込むこともありました。そんな時は、一緒に頑張ってきた友達

と励まし合いながら乗り越えることが出来ました。

5年生では相互実習をしたポリクリと、私達の代から本格実施となったCBTとOSCEが印象に残っています。

そして5年生の11月から6年生にかけての臨床実習では本当にいろいろな経験をさせて頂きました。臨床実習では自分で望めばいろいろな経験が出来るようなシステムになっていて、私はあまり要領よく物事を行えないのでいろいろやり遂げられるか心配ではあったのですが、せつかくの機会なので何でも経験してみようという気持ちで、この一年間過ごしてきました。

自分の体力を過信して、診療での緊張が続いたり技工物があったり忙しい時に昼食をしっかりと取らなかった時期もありました。自業自得ではあるのですが体調を崩してしまい、しかし体調が悪くても行うべき事がたくさん有り休めないことになかなか治らず悪循環となってしまう際は、本当に健康管理の大切さを痛感しました。先生方を始め、周りの友達には何度も助けてもらいました。

また患者様には診療に長い時間がかかって負担をかけてしまったにもかかわらず、温かい言葉をかけて頂く事が多々あり、私の励みとなっています。

6年間の大学生活はあっという間でしたが、頑張った分とても充実した日々でした。

この6年間を通して言えることは、同級生、先生方、部活の先輩・後輩、家族など周りの人々にいろいろな面で支えていただいて無事卒業を迎えることが出来たと思います。ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。

まだ社会人としてのスタートラインに立ったばかりですので、これからも努力し後悔ないようにしていきたいと思います。

卒業にあたって

口腔生命福祉学科4年 濱松 亜由美



このたび、卒業にあたって歯学部二ニュースの原稿を書くことになりました。口腔生命福祉学科初の卒業生として、私の4年間について振り返ってみたいと思います。

1年生

五十嵐キャンパスでの教養の授業が主でした。聴講取りや学食など実に大学生らしい生活を満喫していました。いろんな授業が自由に受けられるシステムが気に入っていました。また、学生談話室や2食などもお気に入りです、毎日入り浸っていました。

2年生

旭町キャンパスに移動し、専門の勉強が始まり、大学生らしいキャンパスライフに終止符を打ちました。ほとんどすべての授業がPBLという授業スタイルで、慣れるまでは大変でした。特に解剖や生理学などは、自己学習が的外れだったため苦労しました。

後期になると、顎模型に歯石やマニキュアをつけてはスケーラーで落とす、という一連の作業を繰り返す日々でした。なぜか、滅菌の係りになる率が高く、オートクレーブをよく作動させていました。

3年生

編入生が10人仲間入りし、学科の人数が1.5倍になりました。様々な年代の人と仲良くできるのが不安でしたが、みんなフレンドリーでいい人ばかりだったので、すぐに仲良くなれました。また、編入生は私たちにとってとてもいい刺激となり、学科が活性化しました。

さらに、福祉の勉強が始まり、悪戦苦闘でした。年金や医療保険、高齢者問題や児童虐待など日本の抱える問題のオンパレードで、勉強していると日本の未来について心配になりました。福祉を勉強することで、社会についての関心がわいた気が

します。また、福祉の姿勢を学べたことは一生の財産だと思っています。

後期からは、少しずつ歯科衛生士の臨床実習が始まり、その大変さに、4年生からちゃんとやっ
ていけるのか不安になりました。

4年生

これは、ほんとよく乗り切った！ といった感じ
です。臨床実習だけでも大変なのに、社会福祉
士の現場実習あり、卒論あり、二つの国試あり(特
に福祉の授業は4年ではないため独自に進めるし
がありません。しかし、日々の生活に疲れてなか
なかできない……)、卒後の進路のための活動あり
……。本当に大変でした。

そんななか、実習先の患者様や利用者さん、そ
して歯科医師の先生からの「ありがとう。」は、本
当に救われる思いでした。これほど、「ありがと
う。」のすばらしさを感じたことはありませんで
した。人から何かをしてもらったときにちゃんと「あ
りがとう。」が言える大人になりたいと思います。

最後に

4年間振り返ってみて、ほんとみんなよくがんば
ったなあとしみじみします。これから卒業して、
みんなとバラバラになるのは寂しいけれど、一期
生として学科のみんながいろんな道で頑張ってい
くのを励みに、私も頑張りたいと思います。

